



## 第58回

### G7広島サミットから1年

※2024年5月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

主要7カ国首脳会議（G7サミット）が広島市で開催されてから1年を迎えた。サミットでは核軍縮に関するG7初の首脳声明「広島ビジョン」が発表されたが、米国が5月14日に臨界前核実験を米国が実施するなど、「核兵器なき世界」にはほど遠いのが現状だ。「全てが印象的だった。各国の首脳が広島に来たこと自体に意味がある」。実家のあった広島市東区で被爆した小倉桂子さん（86）は首脳らに被爆体験を英語で証言し、そう振り返る。

2023年5月19日、首脳たちはそろって平和祈念公園を訪れて原爆資料館を視察した。小倉さんは、2歳で被爆し白血病のため12歳で亡くなった「原爆の子の像」のモデル、佐々木禎子さんのエピソードを紹介。「被爆後10年もたって自分の子どもが亡く

なったらどう思うでしょうか」と訴えた。「首脳らは禎子さんが病床で作った折り鶴を食い入るように見つめていた」と話す。バイデン米大統領からは握手を求められ、ねぎらいの言葉もかけられたという。

一方、「私たちは蚊帳の外だった」と話すのは広島県原爆被害者団体協議会（県被団協）の箕牧智之さん（82）みまきのちゆきだ。箕牧さんは1945年3月の東京大空襲後、東京から広島市にある父の実家に疎開していた。当時5歳。原爆が投下された日、けがをした被爆者が無言でそろそろと逃げてくる姿を目にし、恐怖を感じたことを覚えているという。広島駅に勤めていた父を捜しに翌日から3日間、母と共に爆心地近くをさまよい被爆した。今回、首脳らに面会できた被爆者は限られ「被爆者

はそれぞれ多様な体験をしている。もつと多くの人の声に耳を傾けてほしかった」と肩を落とした。

サミット後もロシアによるウクライナ侵攻は続き、22年2月にはイスラエルがイスラム組織ハマスの攻撃に報復する形でパレスチナ自治区ガザ地区への地上侵攻を開始した。小倉さんは「国際情勢がもっと良くなると思っていたが、残念だ」と吐露した。箕牧さんも「戦争で核兵器が使用されないか心配している。核戦争に勝者はない」と懸念し、6月にイタリアで開かれるG7サミットで核兵器廃絶の議論が進むことを期待する。

同協議会の佐久間邦彦さんは被爆地でのサミット開催は意義があったと評価しつつ、「核軍縮を進めるという約束が実行されていないことに憤りを感じる」と語った。広島県の湯崎英彦知事も5月19日、取材に応じ「核なき世界を目指す取り組みに逆行する動きが続いている」と批判した。